

議事概要

会議の名称	令和6年度第1回三田市子ども審議会
開催の日時	令和6年6月21日（金）10時00分～11時43分
開催の場所	本庁舎3階302AB会議室
出席した委員の氏名	名須川知子会長、中西利恵副会長、尾上尚司委員、鈴木奈津子委員、高橋香澄委員、藤原慶子委員、山地真由美委員、原口富美子委員、大島一晃委員、井口圭子委員、宮武雅恵委員
出席した職員の職及び氏名	（事務局） 松本子ども・未来部長、喜多子ども・未来部次長、松下子ども政策課長、平石子ども家庭課長、神影子ども育成課長、井上保育振興課長、藤田幼児教育振興課長、佐藤移住定住促進課長、田中学校教育課長、市原教育支援課長、西中子ども政策課副課長、亀島幼児教育振興課副課長、永井障害福祉課副課長、西子ども政策課係長、小西子ども政策課係長、荻野子ども政策課主任、山田子ども政策課主任、谷本子ども政策課職員
傍聴人の人数	2名
議題	報告事項 (1)第2期三田市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について（資料1） (2)次期計画策定に向けたニーズ調査等結果概要について（資料2-1、資料2-2、資料2-3、資料2-4） (3)三田市を取り巻く現状について（資料3）
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	【資料1】第2期子ども・子育て支援計画の実施状況 【資料2-1】三田市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査等の結果（概要） 【資料2-2】三田市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査結果概要【保護者調査（就学前児童・小学生）】 【資料2-3】三田市子ども・若者の意識に関する調査結果概要【中高生・若者】 【資料2-4】関係機関・団体調査結果【概要】 【資料3】三田市の子ども・子育てを取り巻く現状 【資料4】こども家庭庁資料抜粋 【資料5】三田市こども計画 策定スケジュール案（予定）
連絡先	子ども・未来部 子ども政策課 電話（079）559-5079

会議経過

1. 開会

- ・喜多子ども・未来部次長の司会により開会、配布資料の確認等
- ・松本子ども・未来部長より挨拶

2. 議題報告事項

(1) 第2期三田市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について

(事務局より説明)

・・・【資料1】

会 長：基本目標Ⅲの今後の課題について。こども基本法が令和5年度に施行され、子どもの人権について意識することがとても重要であると感じています。

委 員：2ページに「子どもの居場所づくりの推進」とありますが、放課後児童クラブは、あくまでも学童保育で、あまり居場所という感覚がなく、ここに入れるのは適切でない印象を持ちました。民間の取り組みで、放課後子ども教室を含め様々な活動があるので、それらを「子どもの居場所づくり」の指標としてあげるべきだと思います。

2点目は、不登校支援の関連で、今年度から校内サポートルームの予算がつき、三田市もサポーターを雇用して実施していると思います。校内サポートルームは、学校の中にあるつつ、学校とは違う価値観のものかと思いますが、今後の校内サポートルームについてどのようにお考えでしょうか。

最後に、11 ページ以降の指標について。12 ページの基本目標Ⅲの1 (1)「子どもの権利擁護に関する理解促進」は、子どもの権利擁護の指標として適切でない印象を受けました。指標は、アウトプットに焦点を当てがちですが、我々のような民間事業者にとってはアウトカム指標が当たり前になっています。つまり、「何をしたか」ではなく、「どう変化したか」に着目すべきという考え方が主流になってきています。今後、指標のあり方を見直す可能性はありますか。

事務局：指標は、国がこども大綱の中で示しています。新たな計画では、第2期の指標をそのまま継続するのではなく、こども大綱を参考にしながら今後検討したいと考えています。

事務局：校内サポートルームについて。学校生活に不安を抱えている子ども達が安心して過ごすことができるよう、校内サポートルームを設置しました。校内サポートルームにはサポーターを配置しており、教職員と計画を立てながら支援をしているところです。

委員：校内サポートルームのお話がありましたが、まだサポーターがいない学校もあります。地域の方でカバーできないかをご相談を受けましたが、子どもとの関わりに慣れない方がいきなり入るのは難しいので、確実にサポーターを各校に付けていただきたいです。また、サポーターだけではなく、畑ボランティアや花壇ボランティアといった学校支援ボランティアの方々と触れあえる学校内の居場所があっても良いと思います。地域のボランティアの方も、子どもと触れあうことでモチベーションが上がり、相互に良い効果があると考えます。個人情報観点から難しいという意見もありますが、柔軟に考えて、校内での子どもの居場所づくりを広げていけたら良いと思います。

こうみん未来塾については、プログラムが充実していて良いと思いますが、化学系のプログラムが多い印象があります。今の子ども達は体力が落ちていると感じるので、身体を動かすプログラムを入れていただきたいです。三田市はスポーツの人材がたくさんいらっしゃいますが、子ども達にスポーツを教える機会があまりありません。そこで、こうみん未来塾に身体を動かすプログラムを設定し、地域のスポーツ人材が先生となるのはどうでしょうか。このように、地域人材の広がりを図ることができたら良いと思います。

委員：7ページの「幼児教育・保育サービスの充実」の「待機児童の推移」を見ると、今は待機児童がほとんどいないようなので、良い傾向だと思います。今後もサービスを充実させてもらえると嬉しいです。

(2) 次期計画策定に向けたニーズ調査等結果概要について

(事務局より説明) ・ ・ ・【資料2-1】【資料2-2】【資料2-3】【資料2-4】

委員：子どもだけではなく、保護者も、他人に伝える力が落ちていると常々感じています。今後は、インスタグラム等を使う世代がどんどん出てくると思うので、それらを介して繋がっていくことも大事だと考えています。

また、こどもまんなかワークショップは、伝える力について教える良い機会だったと思います。子ども達の活字離れもあり、本を読まない子の言葉はどこか拙いと感じるため、読書環境に力を入れてはどうでしょうか。小学生が忙しく、本を読む時間がほとんどないという状況をどうにかできればと思います。

委員：こどもまんなかワークショップ等の声が、直にあがってきていることが良いと思いました。私達の世代が子どもの頃は、年配の先生が丁寧な言葉を使って会話してくれていま

したが、今は若い先生が多く、友達関係のような言葉遣いによって、子どもを傷つけていることがあることを理解してほしいです。集団生活で子どもがお互いの意見を言い合いつつ、子ども同士でどう解決していくかについて学べる場を提供してほしいです。先生には、子どもの意見に耳を傾けてほしいので、子どもへの接し方の研修をしていただきたいです。

委員：私のNPOでは、経済的課題を抱えている家庭の子どもの学習支援事業をしています。受講者募集の面談をしていると、半分近くが不登校の経験がある子であり、不登校の要因の大半は先生とのトラブルだったため、ぜひ先生の研修等をしていただきたいです。また、資料2-2の15ページ「宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人や場所はありますか」の設問に対し、「ない」と回答した人は小学生保護者で10.1%となっていますが、18ページの「相談したことがない理由は何ですか」の結果を見て、コミュニケーション能力が低いのかも感じました。また、何を相談したら良いのか分からない人への言語化のサポートが必要であると思います。資料2-3の4ページに、安心できる居場所の数別の生活満足度がありますが、居場所の数が0～2と回答した子どもは、他の設問でこういった回答をする傾向があるのでしょうか。同じく資料2-3で、体験活動を通して中高生の自己肯定感が高くなるのはそのとおりだと思いますが、困窮世帯や多子世帯は体験活動が乏しくなることは容易に想像できます。今後、どんな支援が必要だろうかと思いました。最後に、こどもまんなかワークショップについて、募集方法を教えてください。

事務局：困窮世帯や多子世帯の体験活動への参加については、ご意見を踏まえ、今後の審議の中で整理していきたいと思います。

安心できる居場所の数別の詳細な分析はできておりませんので、ご意見を踏まえて分析し、ご報告致します。

また、ワークショップは、広報誌やホームページ、三田市の公式LINE等で募集をかけ、市内の各公立中学校と高校にはチラシを配布しました。

会長：行政だけではなく、行政と民間で連携しながら取り組む方法もあるかと思います。

委員：私の家庭には障害児がいます。イベント等があっても、現地集合が難しいことが多いです。最寄り駅集合で、バス等で連れていってもらえれば参加できることもあると思うの

で、何か案を考えてもらいたいです。

委員：バスの運行代が非常に高く、現地集合にしてしまうことがあるので、何らかの方法を考えられたらと思います。私が運営している事業所では、ここ2年で外国人の子どもが1割に達しており、様々なサポートが必要だと感じています。資料1の8ページの一番上に「母語及び日本語によるコミュニケーションを支援するため」とありますが、具体的にどのようなサポートをされているのでしょうか。

事務局：母語支援が必要な生徒が訪日された場合、兵庫県の多文化共生サポーターが1年間派遣されます。1年間が過ぎても、引き続きサポートが必要な場合は、三田市の語学指導員を派遣しています。また、別室で個別指導をする際の母語支援や、懇談等における保護者と担任との意思疎通の支援を行っています。

委員：他市では外国人が増えていることもあり、団体へ委託して、学級だよりを母語で翻訳するサービスを実施しているようです。母語支援について、学年が上がるにつれてサポートの日数が減ると聞いたことがありますが、そのあたりの実態はどうでしょうか。

事務局：サポートの日数は、訪日されて約半年は週に3日程度で、半年が過ぎれば週1日～2日に減ります。市のサポートは2年目からの事業になり、週1日程度となります。どうしても必要な場合は緊急派遣等もありますが、週5日つくものではなく、必要に応じて柔軟に対応しているところです。学級通信等についても、語学指導員・県のサポーターや、国際交流協会等に翻訳を依頼しています。

委員：体験活動について、自分の地域の学校や公園での活動が一番参加しやすいと思います。最近は施設使用許可がなかなかおらず、使用できないことも多いです。規則も大切ですが、柔軟に対応していただきたいです。

(3) 三田市を取り巻く現状について

(事務局より説明)

・・・【資料3】

委員：9ページの女性の就労について、フルタイムとパートタイムの割合はどうなっていますか。

事務局：今手元に数値がございませんので、後日ご回答いたします。

3. その他

- ・ こども大綱（こども家庭庁資料抜粋）
（事務局より説明）

・・・【資料4】

委員：国がこのような方針を示したということは、補助金を出すということに等しいと思います。民間事業者とどのように協働して国の補助金を活用するのかが、最近のトレンドになっている気がします。地域の団体と連携して国の補助金を活用し、事業を実施・検証しつつ制度化していくことについて、市でも検討してほしいです。

委員：三田市では子どもの医療費がかかり、とても負担に感じています。

事務局：先日の議会において、令和7年度から子どもの医療費に関する取り組みを進めていきたいと市長が表明しております。

副会長：資料2-2の26ページ「放課後児童クラブの利用」の設問では、就学前保護者の56.6%が利用したいと回答しています。ところが、14ページの「放課後子ども教室の利用」の設問では、利用したいと思わない人が2018年の調査より増えています。一方、「子どもに参加させたい地域の活動」は、「スポーツの指導・体験」が最も多く、次いで「地域のお祭りや行事」となっています。地域の人間関係や居場所等づくりの課題解決につながるような方策を、関連する調査結果を活用し、検討していただきたいです。

委員：子どもが何を考え、何を求めているのかが大事だと思います。子どもが自分の考えを伝えて、問題解決する場がたくさんあれば良いと思います。

会長：私も、子どもの声を聴く機会があると良いと思います。また、今後は高齢者が増えていくので、多世代交流ができるような取り組みを考えられたらと思います。
貴重なご意見をいただき、また、熱心にご審議いただき、ありがとうございました。

- ・ 次期計画策定に向けたスケジュール
（事務局より説明）

・・・【資料5】

(質疑なし)

4. 閉会